

施策評価（令和5年度）

戦略2 農林水産戦略			
目指す姿4 農山漁村の活性化			
幹事部局名	農林水産部	担当課名	農山村振興課
評価者	農林水産部長	評価確定日	令和5年7月31日

1 施策（目指す姿）のねらい（施策の目的）

中山間地域ならではの農業・農村ビジネスの振興や、半農半Xなど新たな兼業スタイルの普及により、関係人口や定住人口の拡大が進むなど、多様な人材が活躍する農山漁村の実現を目指します。

2 施策の状況

2-1 成果指標の状況及び定量的評価

	施策の方向性、指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	直近の 達成率	判定	備考
①	【施策の方向性①】 中山間地域のブランド特産物数 (累積)(件)	目標			25	28	31	34	88.0%	c	
	実績	22	22	22							
	出典:県調べ	達成率			88.0%						
②	【施策の方向性②】 新たな農村ビジネスの取組件数 (累積)(件)	目標			3	6	9	12	133.3%	a	
	実績	-	-	4							
	出典:県調べ	達成率			133.3%						
③	【施策の方向性②】 農村関係人口(人)	目標			8,800	9,600	10,400	11,200	118.7%	a	
	実績	9,887	6,518	10,448							
	出典:県調べ	達成率			118.7%						
④	【施策の方向性③】 農村地域づくり活動サポート人材 の育成数(累積)(人)	目標			10	20	30	40	170.0%	a	
	実績	-	-	17							
	出典:県調べ	達成率			170.0%						
⑤	【施策の方向性④】 農地保全活動面積(ha)	目標			102,900	103,400	103,900	104,400	100.3%	a	
	実績	102,297	101,908	103,256							
	出典:県調べ	達成率			100.3%						

※ 指標の判定基準

a: 達成率 \geq 100% b: 100% $>$ 達成率 \geq 90% c: 90% $>$ 達成率 \geq 80% d: 80% $>$ 達成率 \geq 70% e: 70% $>$ 達成率
n: 実績値が未判明

定量的評価結果	計算式
3.60 (A相当)	① a判定 × 4個 = 16点 ④ d判定 × 0個 = 0点
	② b判定 × 0個 = 0点 ⑤ e判定 × 0個 = 0点
	③ c判定 × 1個 = 2点
	①～⑤の合計 18点 ÷ 5個(判明済み指標) = 3.60

※ 指標の判定基準 a:4点 b:3点 c:2点 d:1点 e:0点

※ 成果指標において実績値が未判明となった指標がある場合には、それを除いて平均点を算出する。

※ 定量的評価の判定基準

A相当:平均点が3.6点以上 B相当:平均点が3.2点以上3.6点未満 C相当:平均点が2.8点以上3.2点未満
D相当:平均点が2.4点以上2.8点未満 E相当:平均点が2.4点未満

2-3 主な取組状況とその成果

【施策の方向性① 中山間地域における特色ある農業の振興】

- ・ 地域特産物のブランド化など地域資源を生かした「しごと」を軸とした地域活性化を目指すプラン（元気な農山村創造プラン）を4地域で策定した。

【施策の方向性② 地域資源を生かした多様な農村ビジネスの促進】

- ・ 農泊の推進を図るため、首都圏の企業向けにサービスを展開する福利厚生代行企業への委託により、情報発信やアンケート調査を行ったほか、モニターツアー等を実施した（ツアー参加者：延べ15名）。なお、アンケート調査の結果から、30代から50代のファミリー層に需要があることが判明した。
- ・ 地元産食材や農業体験等を提供するゲストハウスの整備に取り組む1地域を支援した。

【施策の方向性③ 新たな兼業スタイルによる定住の促進】

- ・ 新たな兼業スタイル「半農半X」の普及による地域活性化を図るため、八峰町及びにかほ市で「半農半X」の可能性調査を実施したところ11名<+4名>が参加し、本業のスキルを生かして地域貢献活動を行ったり、地域を再訪して交流を継続したりするなど、関係人口の拡大につながっている。
- ・ 農山漁村地域を支える人材や組織を育成するため「農山漁村プロデューサー養成講座AKITA RISE」（入門編：全3回（延べ302人）、実践編：全7回（16プロジェクト、24人））を実施し、地域で活躍する人材の裾野拡大とネットワークづくりを進めたほか、地域の新たなプロジェクトの磨き上げを進め、具体的な取組につながるよう支援した。

【施策の方向性④ 多面的機能を有する里地里山の保全】

- ・ 多面的機能支払交付金及び中山間地域等直接支払交付金に取り組む地域において、草刈りや水路の泥上げ等の共同活動を通じて農地が保全された（103,256ha（令和4年度実績）<+219ha>）。
- ・ 遊休農地再生利用モデル事業により遊休農地の再生を支援した結果、農地の利用につながった（2市町村<±0>、2.4ha<±0>）。

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
A	成果指標の達成率を基にした定量的評価は3.60で「A相当」であることから、総合評価は「A」とする。
	【定性的評価として考慮した点】 ・

4 県民意識調査の結果

質問文	農家民宿や農家レストランなど地域資源を生かした多様な農村ビジネスが増え、農山漁村が活性化している。					
満足度	調査年度	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	肯定的意見	12.7%				
	十分 (5点)	1.1%				
	おおむね十分 (4点)	11.6%				
	ふつう (3点)	38.6%				
	否定的意見	33.2%				
	やや不十分 (2点)	19.9%				
	不十分 (1点)	13.3%				
	わからない・無回答	15.4%				
平均点	2.61					

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題	今後の対応方針
①	○ 中山間地域における特色ある農業の振興に当たり、えだまめやねぎのように大面積・大ロットで取り組む品目以外に、小面積・小ロットでも収益性が高く、取り組みやすい品目等の生産を拡大する必要がある。	○ 中山間地域の生産者の所得向上と雇用の確保を図るため、取り組みやすい品目の選定や現地実証等を行い、小ロットでも収益性の高い品目の生産拡大等に向けた取組を支援する。
②	○ 各地域における多種多様な地域資源を生かした農村ビジネスを促進するため、地域資源を活用する人材（プレイヤー）の確保や地域づくりへの行政等による伴走支援が必要である。	○ 「秋田県農山漁村プロデューサー養成講座AKITA RISE」を継続して開催し、地域づくり活動の主体となる人材や組織の育成を進める。また、県、市町村及び関係機関等からなる推進会議を開催し、地域づくりに寄り添う伴走力向上を図る。
③	○ 「半農半X」体験の参加者の多くは、県外からのフリーランスやリモートワークが可能な企業の会社員であり、参加可能な人材が限られている。	○ 農林漁業に関わりたい人材が「半農半X」を実践できるよう、多様なタイプの「半農半X」について企画提案を募集し、地域活性化の可能性を探るとともに、農林漁業への関わり方の選択肢を増やしていく。
④	○ 過疎化・高齢化や人材不足に伴い、地域の共同活動が低調となっており、日本型直接支払制度の取組継続が困難な組織や協定が増加している。また、再生困難な荒廃農地が増加しており、多面的機能の維持・発揮の観点から対策が急務となっている。	○ 5年間の活動の終期を迎える組織や、特に継続が危ぶまれる組織を最優先に訪問し、隣接集落も巻き込んだ課題の解決への話し合いを進める。また、「人・農地プラン」の見直しに伴い地域計画の策定に取り組む地区や、ほ場整備構想時点で地区外と判断した地区等において、事業の活用により粗放的な土地利用を推進する。

6 政策評価委員会の意見

自己評価「A」をもって妥当とする。